

事務事業評価シート

1 基本情報

		事業番号	040203020700		事業の種類	4		
年度	1	事務事業名	ペーロン海館管理事業		予算事業名	ペーロン海館管理事業 優先度 4		
まちづくり目標		未来を支える産業の活性化と環境にやさしいまち		担当部局名	市民生活部地域振興課			
施策名(中)		観光の振興を図る		担当課長	松本 秀文		担当者名	中谷 有輝
取組み事項		交流の活性化を推進する		実施計画への記載	無		主要事業の指定	無
実施計画事業名								
根拠法規及び関連法規		相生市立相生ペーロン海館の設置及び管理に関する条例						
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民・観光客						
	誰(何)を対象として	市民・観光客						
	意図(どのような状態にしたいのか)	相生ペーロンの振興のため、伝統文化の継承と交流の促進を図ることを目的とした相生ペーロンの拠点施設として設置し運営する。						
	事業の全体年度	事業着手年度	(年度)		事業完了予定年度	(年度)		

2 事業の概要 Do

実施の概要		①ペーロン艇(14艇)の管理、②ペーロンの練習・交流の場、③体験乗船会の実施 ④市民・観光客の見学観光施設、⑤拡張利用(他のマリンスポーツ利用、会議室等の貸館)						
活動実績	項目	単位	29年度実績	30年度実績	1年度実績	2年度計画		
	開館日	日	254	231	221	227		
	ペーロン海館管理経費	円	3,651,249	3,942,365	3,237,662	3,667,000		
	体験乗船会の実施	回	17	15	16	20		
	体験乗船会の参加者	人	2,912	2,097	1,981	3,000		

3 投入資源

		会計区分	一般会計				事業費単位:円		
インプット指標		29年度決算	30年度決算	前年比	1年度決算	前年比	2年度予算	前年比	備考
人員	部長以上職員	0.028	0.028	100	0.029	104	0.027	93	
	参事以下職員	0.020	0.340	1,700	0.020	6	0.040	200	
	臨時職員			-	0.040	-	0.020	50	
支出内訳	人件費	525,472	2,897,300	551	624,509	22	678,581	109	
	事業費	3,651,249	3,942,365	108	3,237,662	82	3,667,000	113	
	合計	4,176,721	6,839,665	164	3,862,171	56	4,345,581	113	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	4,176,721	6,839,665	164	3,862,171	56	4,345,581	113	
	合計	4,176,721	6,839,665	164	3,862,171	56	4,345,581	113	

※ 事業の進捗状況

		事業費単位:円			
項目		29年度	30年度	1年度	2年度
全体進捗率	事業費累計				
	進捗率				

4 評価指標

[有効性]

指標名1		ペーロン海館利用人数							
指標説明(式)		利用人数							
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
日	目標	10,000	12,000	120.0	12,000	100.0	12,000	100.0	
	実績	9,373	11,543	123.2	9,626	83.4			
指標名2		ペーロン海館一日当たりの利用者数							
指標説明(式)		利用人数/開館日							
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
	目標	40	50	125.0	50	100.0	50	100.0	
	実績	37	50	135.1	44	88.0			

【効率性】

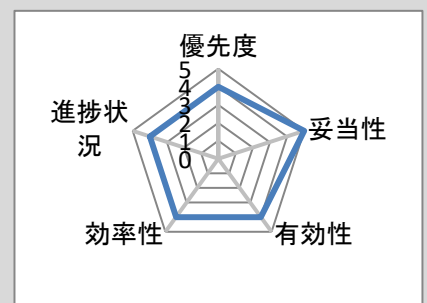
指標名1		ペーロン海館利用者の一人当たりのコスト							
指標説明(式)		管理経費/利用者数							
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
日	目標	108	393	363.9	284	72.3	305	107.4	
	実績	389	341	87.7	336	98.5			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	29年度	30年度	前年比	1年度	前年比	2年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(1年度実績) Check

評価視点	具体的な評価視点	評価コメント及び現状認識	担当課評価
妥当性	市民ニーズ	相生市唯一の無形民俗文化財「相生ペーロン」を市内外の方に知ってもらい、触れられる施設として運営している。市民の誇りである相生ペーロンを介して広く交流を図り、市内ペーロン漕ぎ手約2千人の拠点施設として市民の要求に応える。	5
	目的の妥当性	施設の設置・運営の目的は、相生ペーロンの振興とその伝統文化の若者への継承及び相生ペーロンを通じての交流の促進であり、その目的を達成するための設備を有し、運営の拡大を図っている。	
有効性	成果目標(改善)達成度	ペーロン競漕の練習や体験乗船、観光客の見学などで多くの方が施設を訪れ、活用がなされている。	4
	市民サービス	拠点施設として整備したことにより、艇庫、交流の場、体験乗船への対応等を1か所にまとめることで、交流拠点としての機能を果たせた。	
効率性	執行体制の効率性	管理を相生市観光協会に委託しているが、見学者の受付や船の管理、クレーン等設備の操作について、ペーロンを熟知したペーロン協会員を雇用し運営することで効率的かつ生きた活用ができています。	4
	コストの節減	一括拠点施設としたことに伴い、それぞれの機能に付随する総経費の圧縮を図るため、体験乗船会の運営方法についてペーロン協会とともに協議し、費用面を考慮した新たな運営方法の検討を行った。	
進捗状況	事業計画に対する進捗状況	相生ペーロン海館の活用、体験乗船の運営について、ペーロン協会員で構成される相生ペーロン海館運用検討委員会を設け協議を行い、今後の活用の検討を図った。	4

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価視点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	体験乗船の観光化やチーム同士の交流の場として、より多様な活用方法を検討する必要がある。



配点	32.5
総合評価	27.5

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた2年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価視点	内容
有効性	成果目標(改善)達成度	体験乗船について、マンパワーの確保等運営体制の強化と、体験者となる市外高等学校(新入生レク、修学旅行)や企業(新人研修等)へのPRの促進

(2) 3年度以降の改革改善内容

区分	内容				
重点事項	相生ペーロン海館が相生の新たな交流拠点となるよう、活用や運営方法について協議していく。				
見直事項					
新規事項	相生ペーロンは、令和4年に100周年を迎える。相生ペーロンのさらなる振興を図るため、100周年記念事業や節目を迎えての新たな展開に対応していく。				
方向	継続	成果	拡大	総コスト	維持